



電通大 テクノフェアで科学体験

11月5日、大阪電気通信大学主催の「テクノフェア in ねやがわ」が、同大学寝屋川キャンパスで開催された。今年で10回目を迎えた秋の恒例イベントは、日常生活において触れる機会が少なく、難しいイメージを抱きがちな科学技術をわかりやすく紹介。深刻視される理科離れへの対応策として近隣市の教育委員会後援のもとで始まった。

「科学って、なに？」「技術って、むずかしそう」そんなイメージが全くなくなると大好評で、年々参加者も増加している。



点をおいた授業と英語で行う授業について研究に取り組んでいる。

寝屋川市は、文科省の「英語教育特別推進地域」に指定されていることから、平成17年に「国際コミュニケーション科」を設置。小学校1年生からの英語教育を行っている。現行の小学5・6年生からの英語学習から新学習指導要領への移行を視野に入れたもので、全国に先駆けた取り組み。市内小学校では、英語の音声に十分慣れ親しみながら表現することで「読むこと」「書くこと」につなげる授業を実施。中学校ではスピーキングに重

点をおいた授業と英語で行う授業について研究に取り組んでいる。

日頃の研究成果を発表する公開授業が11月10日、市立第四中学校で開催され、市内各方面からの見学者が見守るなか、教師の取り組み報告と指導助言が行われた。

取り組み内容としては、小学1年生は「このりものなあに？」とのテーマで英語での乗り物の言葉を知り、遊びの中で英語に慣れ親しんだ。また6年生の授業では、プログラミングロボット

『見る！触れる！学ぼう！』3Dスキャナなど最先端の工作機械を使ったモノづくりをはじめ、エンターテインメント、医療など、幅広いジャンルの体験型プログラム満載の科学体験によって科学の世界がぐんと身近になる。子どもも大人も、ともに参加して、子ども連れの母さんも楽しめる寝屋川の名物行事となっている。

とくに今回は、2020年から小学校でプログラミング教育が必須になることから、幼児から体験できるプログラミングが登場。遊び心に満ちたコンピュータの世界を体験した子どもたちの楽し気な様子が印象的だった。

2020年 小学校 プログラミング 必須化

グ教育

を使い、英語表現だけでなく思考を重視した授業が行われた。ともに英語での発言に慣れ親しんでいる児童たちの活気ある様子が印象的な授業風景であった。



考えを深め、共に学ぶ授業
英語教育研究発表会